

# 資料活用能力育成についての一提案

## 一特に資料の選択について一

足利市立矢場川小学校教諭 飯塚 香

### 1. はじめに

社会科学学習においては、ややもすると知識を追求することが最大の課題のようにとらえやすい。しかし、その求めるところは、本質的な知識であり、活用できる能力であろう。

これは、単に知識の量的獲得を求めるのではなく、社会の変化にも耐え、転移することの可能な知識の獲得であり、質的な知識の獲得を意味するものと考えられる。また、ある問題に直面した時目的にそって情報を収集し、選択、整理し問題解決に役だてること、さらには選択した資料やこれから作成した資料を活用し、思考をめぐらして問題を解決する力を育てることをねらってもいいと考えられる。

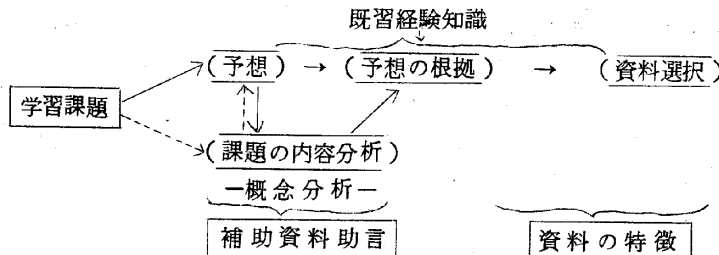
しかし、自己の指導をふりかえてみると、理論としては理解していても、日常の学習指導においては、ともすると単なる量的知識の積みこみになりやすく、児童たちに、社会科でねらう真の力をつけることはむずかしい。このことは児童が資料の活用となると活発な活動を示さないことによく現われている。つまり、学習経験の不足、学習訓練の不足に原因があるように思える。この児童たちに、資料をどう選んだらよいかを身につけることが現在の急務である。この実践はこういう素朴な発想のもとに始めたのであり、その一端をここに記述してみたい。

### 2. 資料活用能力—その選択について—

資料活用能力には、内容としては収集、選択、分析、作成等多くのものがあげられよう。また、資料の形態によって多少のちがいが考えられる。さらには、その指導の基準ともいうべき、社会科指導要領に示されている目標を考慮する必要がある。しかし、ここでは、理論的なことはさけ、児童の能力の実態にもとづき、日常考え実践している資料選択力を育成するための一方法を記してみたい。

#### ○資料の選択について

資料を選択する、これは簡単なことのようにとれるが、児童にとっては大変なことである。この選択が行われるまでにいかなる思考過程が必要となるか、一例をあげてみる。



資料が選択されるまでの過程としてはもっと多くの要素が複雑にからみあっているであろう。しかし、現在は、この考えのもとに、指導を進めているが資料の選択をするには、その前段階にあたる、課題の分析、予想が大きな鍵をにぎっているものと考え、この段階の指導に力を注いでいる。(学習課題が抽象的概念でなく、より具体的な場合にもあてはまるであろう。)

つぎには、自己の予想を証明するための資料が備える要素(内容項目)を分析する必要がある。

つまり、必要とする資料の標題を明確にさせることである。

このような過程をとった場合、意図的に有効な資料を選び、学習を成功させるという4年生としてのねらいに到達できるのではないだろうか。

### 3. 指導の実際

(1) 小単元名 栃木県の人口と土地

(2) 指導要領の分析、目標、指導内容の配列等については略す。

(3) 本時の指導

① 題目 栃木県の交通

② 事前調査（本時のテーマに関するもののみにかぎる。）

③ 栃木県内で、交通のべんりのよい所は  
どのあたりだと思いますか。

○宇都宮とその近く……………19	
○足利……………2	○市町村……………1
○村……………2	○無答……………1

なぜそのあたりだと思いましたか。

○道路が広い……………6	○人口が多い……………2
○鉄道がある……………1	○まちだから……………2
○交通がはげしい……………2	○商店客が多い……………2
○県庁がある……………4	○車が通らない……………1
○中央だから……………1	○人が少ない……………1
○交通の分布図……………10	○産業分布図……………1
○道路の図……………2	○商店の分布……………1
○道路の巾の図……………1	○駅の写真……………1
○ほそ道路の図……………1	○交通の模型……………1
○地図……………3	○道路の写真……………1
○交通の資料……………2	
○道路（巾、ほそ）……………9	○車が通らない……………2
○鉄道……………4	○事故のない所……………3
○バス・電車が走る……………1	○歩道橋信号のある所……………2
○車が多い……………1	○すみよい市……………1
○交通がはげしい……………1	

○あなたがべんりだと思ったあたりが  
本当にべんりかどうか調べるには、  
どんなしりょうがあればよいでしょ  
う。

○交通が便利、というのは、どうい  
ようすの所をいうのでしょうか。

児童たちは便利な所を宇都宮市と一都市をあげ、点としてとらえているにすぎない。また、その原因を、道路、鉄道に求めた者が9名である。県庁へ商店が多いと反応した9名は、それらの事実、事象があるから便利という思考をしている。これは、事象の原因と結果を逆の関係にとらえているともいえそうである。これら二つの質問事項については、遠足（宇都宮）や既習単元（県庁と市町村の結びつき、県庁のある宇都宮）の学習が影響しているのは事実である。

○必要な資料としては、ばくぜんと交通に関係した資料をあげている。しかし、前問の交通の便利な所の理由との関係は考慮されていない。つまり、予想、その根拠、資料との関連が図られておらず、その時点により前後の関係なく応答しているようである。

○交通が便利ということ、道路、鉄道に求めている者が多いが、この場合の道路、鉄道の存在のみでなく、その運行状況が重要なことではないだろうか。この意味からすると、歩行者の立場から便利ということをとらえていることとともに、その考え方を指導する必要がある。

③ ねらい

○栃木県においては、県の南北を貫く東北本線の交通条件に恵まれていることを理解させる。

○つぎの能力を養う。

○地図—交通図から、国鉄の路線名と行先、私鉄、国道を読みとる。

○交通が便利であることは、単に鉄道や道路の存在によるのではなく、列車やバスの運行状況（通過本数、複線、電化も含めて）からも考える必要のあることに気づき、資料を選択する。

○交通図と運行状況を示すグラフから、交通条件に恵まれているのは、東北本線沿線であることを考える。

④ 展 開

学 習 活 動	資 料	指 導 上 の 留 意 点	評 価
<p>1 前時の復習をし、本時の位置と学習課題を確認する。</p> <p>2 学習課題について自分の意見をまとめ発表する。</p> <p>○予想とその根拠</p> <p>○交通の便利さ</p> <p>3 学習課題を解決するための資料を考え、選択する。</p> <p>4 栃木県の鉄道、道路図を作成する。</p>	<p>○学習予定表</p> <p>○栃木県地図</p> <p>○スライド (東北線、両毛線の電車)</p> <p>(宇都宮駅と足利駅の列車発着時刻表)</p> <p>○地図(交通)</p> <p>○グラフ(運行)</p> <p>分布図(人口産業)</p>	<p>○復習は記憶の再生としてではなく、本時の位置づけを中心に扱う。</p> <p>学習課題は児童の意見を取り入れるが最終的には、栃木県で交通の便利などころはどのあたりか、とする。</p> <p>○発表の後の話し合いは現在訓練中のため、教師が意見を整理し、相違点を明確にしながらすすめる。</p> <p>○予想は学習経験や根拠にもとづいた発表をさせる。</p> <p>○児童の発言は、一都市名をあげるにとどまろうが、これはそのままとりあげる。</p> <p>○予想の根拠は、事前調査からすると、道路、鉄道の存在、人口が多いから便利といったことや、安全の立場からの発言が多いことが予想される。したがって、資料の選択を容易にするため、スライドを用いて、交通便利さを別の視点からも考える必要のあることを示唆する。</p> <p>資料は予想を証明するためのものという視点から資料名(標題)を考えさせる。</p> <p>資料名が考えられたら、副読本、地図帳、教師準備の資料の中から選択させる。(標題は記入しない。)</p>	<p>略</p>

< 以 下 略 >

#### ⑤ 指導の記録

実際指導の結果は事前の調査に示されたとおり、予想の根拠が明確でないため、資料の選択はスムーズにいかなかった。そこで、学習課題の、便利さ、について、スライドを見せたり、利用者の立場から（一般の利用、工場の利用）考えることを助言した。この過程を学習させることにより、それまで不明りょうであった資料選択の視点がやや明確となり、提示されたり、副読本の資料を選択することができるようになった。しかし、この場合でも、予定の時間の約2倍を費したにもかかわらずまだ目的とする資料を選択できない児童が少数ではあるが存在した。このことは、今後とも一層資料選択の学習過程を研究し、くりかえしの実践が必要なことをものがたっているように見える。

#### 4. おわりに

さきにも記述したとおり、この実践は、自分の目の前に存在する児童たちに少しでも資料の活用、特にその選択する力をつけるにはどうしたらよいか、という素朴な発想からとりくみ、実践しながらあわせて理論研究も行おうとしているものである。したがって、実践記録としては不備な点も多く、また、その内容一考え方一にもひとりよがりの点が多々存在するとともに、その程度の低いことは自から認めざるをえないところです。最後に先輩諸氏のご批正をお願いいたします。

#### 評

情報化社会に突入したといわれる今日、現在の子供たちは将来さらに進行するであろう情報化社会の中で自立していかなければならないことは明白である。今教育を受けている子供たちは、果たしてはん乱するであろう情報の渦の中で、幸せな生活を送ることができるであろうか。こう考えた時、多数の情報の中から、自己の目標達成のために必要な情報を的確に選択、活用する力を育成することの意義は大きい。筆者が社会科における資料活用能力の育成一特に資料の選択について一の実践記録をまとめられたことの意味を改めて確認いたしたい。この記録は、研究視点が明確であること、児童の意識調査を実施し、それを単位時間の指導にうまく生かしていることなどの点に特徴が見られると考えるが、今後とも資料選択の思考過程等について理論・実践の両面から継続的に検討され、有意義な研究が積み重ねられることを期待いたしたい。